

1年

単元名
「あきとあそぼう」

日時 10月16日(月)
授業者 1年1組
1年2組

1 単元の目標

- ・秋の自然と関わる活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫して作ったり、身近な自然の違いや特徴を見付けたりすることができ、自然の様子や四季の変化に気付いたり、遊びの面白さや自然の不思議さに気付いたりする。
- ・作ったおもちゃについての特徴を短い言葉で書き、友達に伝えたり、友達の話の内容を落とさないように聞いたりして、身近な自然を取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①秋の自然と関わる活動を通して、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること、自然の不思議さや、それらを表現する言葉の豊かさに気付いている。 ②自分の思いや考えが相手に伝わるように表現できる。	①秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付ける。 ②教師や友達との関わりを通して、身近な自然を活かした遊びや遊びに使うものを工夫したり作ったりする。 ③工夫した遊びや遊びで使うものなどから知らせたいことを見付け、色・形・様子などの特徴を短い言葉で書くことができる。	①秋の自然と自分の生活の関わりに目を向け、楽しみながら活動しようとしている。 ②友だちの良いところを見付け、伝えようとしている。

3 単元について

【教材について】

第1学年 生活科の内容

- (5) 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることに気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとしている。
- (6) 身近な自然を利用したり、身近にあるものを使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使うものを工夫して作ることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

第1学年 国語科の内容

A 話すこと・聞くこと

(1)

エ 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。

B 書くこと

(1)

ア 経験したことや想像したことなどから書くことをみつけ、必要な事柄を集めたり、確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。

この単元では、生活科「たのしいあきいっぱい」【学習指導要領の内容(5)季節の変化と生活 (6)自然や物を使った遊び】を軸に、国語「知らせたいな、見せたいな」【学習指導要領の内容 B 書くこと(1)ア】、「ききたいな ともだちのはなし」【学習指導要領の内容 A 話すこと・聞くこと(1)エ】をコンバインして学習を進めていく。

学習の導入として、秋の公園に行き、ドングリやまつぼっくり、紅葉した葉などを「あきのおたから」として持ち帰らせる。これらの見付けた秋を児童同士で交流し共有するだけでなく、2年生に「あきのおたから」を使ったおもちゃとして「どんぐりごま」を教えてもらう。そして「あきのおたから」を使ったおもちゃを自分たちでも作る活動に取り組む。【補助資料：予想されるおもちゃ】ここで作ったおもちゃについて国語科「ききたいな ともだちのはなし」で伝えたり、聞いたりする活動を行う。最後にみんなのおもちゃを集結させ「あきいっぱいのくにであそぼう」を行い、遊びを楽しむ時間を確保する。生活科と国語科をコンバインすることで、生活科の学習をより深め、国語科の学習にも目的意識をもって臨むことができると考えた。



【児童について】

本学年の児童は四季を通して同じ公園に足を運び、気温や天気、動植物の様子の変化など季節の移り変わりを体験している。5月上旬に行った春の公園には、タンポポ、シロツメクサ、ハルジオン、カタバミなどいろいろな花が咲いていること、また、木の葉は緑が多いこと、ウメやビワなどの木の実も緑のことが多いことに気付くとともに、これから色が変わっていくであろうことを予想していた。また、夏の公園には、木の葉は緑のものがほとんどであること、春に花が咲いていた植物は葉だけになっていること、春にはまだ緑であったアジサイが色付いたことや、春に比べると咲いている花の数が少ないこと、セミが鳴いていることなど季節によって動植物の様子が変わること気が付いていた。さらに季節の遊びでは、夏の遊びとして「みずてっぼう」と「しゃぼんだま」を行った。暑い季節には水鉄砲の冷たい水が体にかかる気持ちが良いこと、日光があたるとシャボン玉が虹色に見えることなどを体感するとともに、遊びに使うおもちゃを工夫して活動に取り組むことができた。

1学期でひらがなの読み書きの学習を終了し、2学期に入ってから、漢字やカタカナの学習に進み、文字を読むことや、書くことにも慣れてきた。物語文では、ワークシートに気持ちを想像して書くことにも取り組んだ。しかし、文字の習得がゆっくりな児童もあり、書くことに対する個人差は大きい。

2学期初めの「ききたいな、ともだちのはなし」では、児童の夏休みの思い出を聞き合う活動に取り組んだ。1学期から、話し手に体を向け、話を聞くことを指導してきたが、話を聞いている途中で自分の思いを話し出してしまう児童もいる。児童が高い関心で取り組むと考える本単元の学習を通して、書く力・聞く力も伸ばしていきたい。

【指導について】

夏に行った「みずであそぼう」では、「こんな〇〇をつくりたい!」と願いや思いをもって一人一人が意欲的に活動することをねらいとし、あえてチームは組まず個人で学習をすすめた。また、途中で作るおもちゃを変更してもよいこととした。本単元では、「みずであそぼう」のような個人での活動ではなく、同じおもちゃを作りたい人とチームを組んで相談したり、教え合ったりしながら活動を進めることとする。そうすることで、友だちと協働して学習を進めることの楽しさや良さを味わわせたい。また、本単元では、途中で作るおもちゃを変えることなく、一つのおもちゃとじっくり向き合わせる。トライ＆エラーを繰り返す中でうまくいかない原因を考えたり、新しい気づきを得たりと学びを深めていく姿が見られることを期待している。

さらに、自分が楽しんだおもちゃの特徴を伝える文を書くことは、児童のモチベーションがあがる活動になると考える。一人ひとりの興味や関心を大切に、自分の思いをのびのびと表現できるようにさせたい。

以上のような「遊ぶ・書く・聞く」の活動を通して養った身近な人々と伝え合う力を、3学期の「もうすぐ2ねんせい」の学習につなげていきたい。

4 研究主題との関連

目指す児童像 「自ら考え、判断し、行動できる児童」

本単元では友達と協働的に学習を進めていく良さを味わうことをねらいとしている。

① 自ら活動に取り組むことができる児童にするために

「あきのおたから」を使ったおもちゃ作りの導入の工夫と計画的な掲示

第4時に2年生に教えてもらいながら全員でドングリごまを作ったり、昨年2年生が作ったものを見せてもらったりすることで、「あきのおたから」で遊んだり、おもちゃを作ったりすることに対する意欲を喚起する。掲示では「あきコーナー」を設置したり、「あきのおたから」で作ったおもちゃや作り方カードを掲示しておくことで、具体物に触れたり、アイデアを共有したり、活動の見通しをもったりして、活動に対

する興味や関心をもてるようにする。

② **自分で考え、判断することができる児童にするために**

児童の活動を価値づける言葉かけをするとともに、十分な活動時間を確保する。

一年生という発達段階において、子どもたちの思考活動は様々な形で発出されており、教師の問いかけに対する発言やカードに記載された言葉だけではなく、活動中でのつぶやきや行動の修正などにも表れる。教師が一人ひとりの児童の活動を見取り、声をかけていくことで、無自覚だった気付きが自覚されるとともに、児童が安心感や自信をもって活動を進めていく姿が見られることを期待する。【補足資料：教師の言葉かけについて】

また、「おもちゃを作る・遊ぶ・試す」→「ふりかえる・次時を見通す」という学習の流れをルーティン化することで活動の時間を確保し、試行錯誤しながらおもちゃを作り出す姿が見られることを期待する。

③ **協働的に行動（表現）することができる児童にするために**

グルーピングを工夫するとともに、違うおもちゃを作った児童との交流の場を設定する。

同じおもちゃを作りたい児童同士でグループを作ることで、アイデアを共有し合ったり、うまくいかないところを教え合ったりして、協働的な学びの良さを味わわせたい。また国語科「しらせたいな見せたいな」で学習したことを活かして、自分が作ったおもちゃについて説明するカードを作成し、国語科「ききたいなともだちのはなし」の学習で伝えたり、友達の話の聞いたりすることで、自分とは異なる表現方法や考え方の良さに触れ、協働して学習することで学びが広がる良さを感じさせたい。

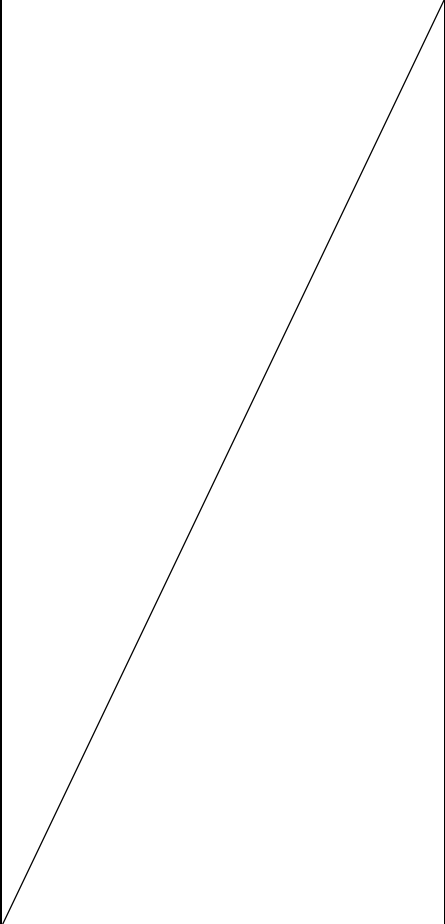
5 単元計画 *国語・生活の①②…はみらい科として扱う時数を表している。

国語	生活	みらい科
<p>A しらせたいな、見せたいな(1/10)</p> <p>B ききたいな、ともだちのはなし(1/2)</p>	<p>生活</p> <p>たのしいあきいっぱい(12/21)</p> <p>〔小単元〕</p> <p>A こうえんであきをさがそう(2/3)</p> <p>B あきのことを伝えよう(1/1)</p> <p>C あきのおもちゃをつくろう(7/7)</p> <p>D いっしょにあそぼう(2/4)</p>	<p>あきとあそぼう(全14時間)</p>
	<p>A①②</p> <p>公園に出かけ、みんなで探検する。</p>	<p>①②公園で「あきのおたから」をさがそう 春・夏に行った公園に出かけ、夏の自然との違いを探したり、身近な自然の様子が夏から秋になって変化していたりすることに気付く。【思①】</p>
	<p>B①</p> <p>秋の自然と関わったことをふりかえり、夏の遊びと秋の遊びを比べ季節によって生活の様子が変わることに関心、季節を生かして遊ぶことに楽しさを感じて、秋の遊びを楽しもうとしている。</p>	<p>③見つけた「あきのおたから」であそぼう 見つけてきた「あきのおたから」をならべみんなで鑑賞する。 2年生にどんぐりごまの作り方を教えてもらい、公園で見つけた「あきのおたから」と関わりたいという思いをもつとともに、他にもどのような遊びができそうか考える。 【思②、主①】</p>
	<p>C①～⑦</p> <p>集めたさまざまな自然物を試しながら比べて材料を選び、自分のおもちゃをつくる中で、いつも同じ現象が起こるなど、自然の中に一定の決まりがあることに気づき、試行錯誤して楽しいおもちゃを創り出そうとする。</p>	<p>④「あきのおたから」で遊ぶ計画をたてよう 「あきのおたから」でどのように遊ぶかを考え、同じものを作りたい人とグループを作る。 【思②】</p> <p>⑤～⑩「あきのおたから」で遊ぼう いろいろな「あきのおたから」を試しながら比べて材料を選び、自分のおもちゃを作る中で、いつも同じ現象が起こるなど、自然の中に一定の決まりがあることに気づき、試行錯誤して楽しいおもちゃを創り出そうとする。【知①】</p>
<p>A①</p> <p>知らせたいものをよく観察し、色、形、様子などの特徴を短い言葉で書く。 語と語や文と文の続き方に注意しながら、短い言葉で書いたことを一文にまとめる。</p>		<p>⑪つくったおもちゃをしらせたいな見せたいな 自分が作ったおもちゃについて色、形、様子などの特徴などを一文にまとめている。【思③】</p>
<p>B①</p> <p>話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容をとらえて感想をもつ。</p>		<p>⑫ききたいな、ともだちのおもちゃ 友達が作ったおもちゃについての話を聞き、友達のおもちゃの良さや面白さを伝えたり、質問したりする。 【知②、主②】</p>
	<p>D①②</p> <p>友達と一緒に楽しめる遊びやおもちゃを工夫して作り、自分が遊びを創り出したことでみんなが楽しく遊ぶことができるようになったことに気づき、これからも遊びを作り出そうとすることができるようにする。</p>	<p>⑬⑭「あきいっぱいのに」であそぼう みんなが作った「あきのおたから」を使ったおもちゃを集めた「あきいっぱいのに」で遊ぶ活動を通して、秋と遊ぶ楽しさを感じたり、秋を楽しむことのおもしろさに気付いたりする。【主①】</p>

補助資料

教科の観点別評価規準

知識・技能

<p>国語</p>	<p>生活 たのしいあきいっぱい</p>	<p>みらい</p>
	<p>身近な自然の様子が、夏から秋になって変化していることに気付いている。 【こうんであきをさがそう】</p> <p>季節によって楽しめる遊びが変わるなど、季節によって生活の様子が変わること気付いている。 【あきのことをつたえよう】</p> <p>いつも同じ現象が起こるなど自然の中に一定のきまりがあることに気付いている。 【あきのおもちゃをつくろう】</p> <p>自分が遊びを創り出したことで、みんなが楽しく遊ぶことができるようになったことに気付いている。 【いっしょにあそぼう】</p>	<p>友達の良いところを見つけたり、異なる意見を受け入れたりすることの大切さを理解し、協力して学びを進めている。</p>

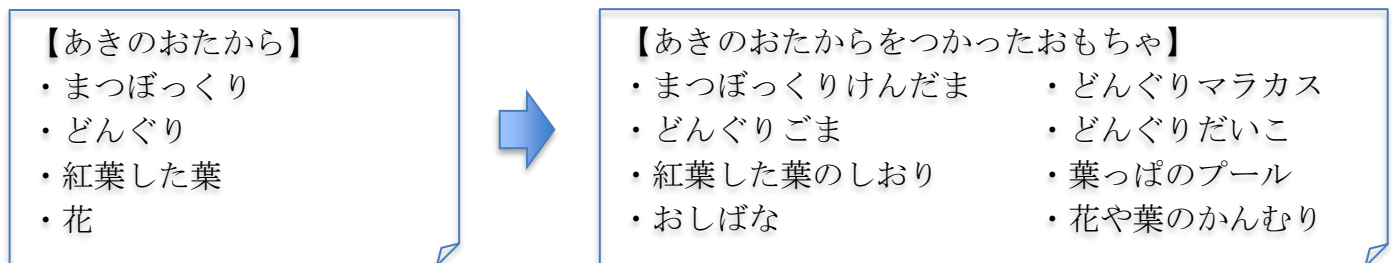
思考・判断・表現

<p>国語 しらせたいな、見せたいな ききたいな、ともだちのはなし</p>	<p>生活 たのしいあきいっぱい</p>	<p>みらい</p>
<p>「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。【しらせたいな、見せたいな】</p> <p>「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。 【ききたいな、ともだちのはなし】</p>	<p>秋の自然を予想して、夏の自然との違いを探している。 【こうんであきをさがそう】</p> <p>さまざまな自然物を試しながら比べ、材料を選び、おもちゃをつくっている。 【あきのおもちゃをつくろう】</p>	<p>友達と関わり合いながら調べたり、観察したりしたことに基づいて自分の考えを選びとることができる。</p>

主体的に学習に取り組む態度

国語 しらせたいな、見せたいな	生活 たのしいあきいっぱい	みらい
学習の見通しをもち、知らせたいものを丁寧に観察し、見つけたことを文章にして伝えようとしている。 【しらせたいな、見せたいな】	季節を生かして遊ぶことの楽しさと手応えを感じ、これからも季節の遊びを楽しもうとしている。 【あきのことをつたえよう】 自分で遊びを創り出す面白さを実感し、これからも遊びを創り出そうとしている。 【いっしょにあそぼう】	身の回りの事柄に目を向け、全体で取り組む課題を知り、教師と一緒に活動の見通しをもちながら活動することができる。

【予想されるおもちゃ】



【教師の言葉かけについて】

言葉かけのねらい	言葉かけの例
寄り添う 励ます 認める	<ul style="list-style-type: none"> ・なるほど、そういうことなんだね。 ・すてきな考えだね。 ・きっとできるよ！ ・先生もここで見ているから、やってみよう！ ・〇〇なところがいいね。 ・ナイスチャレンジだね。 ・〇〇名人だね。
決定を促す	<ul style="list-style-type: none"> ・あなたは何をしたいかな。 ・次は何をしたいかな。友達がやっていることを一緒に見てみようか。
比べる	<ul style="list-style-type: none"> ・前の時間のおもちゃとはどこが違うのかな。 ・〇〇さんのおもちゃとはどこが違うのかな。 ・〇〇ではなく、△△を使ってみるのはどうか。 ・いつも同じ動きなんだね。
手順や過程の整理	<ul style="list-style-type: none"> ・どうやったらこんなに〇〇するようになったのかな ・どうやってつくったの。 ・もう1回やってみせて。
根拠を明らかにする	<ul style="list-style-type: none"> ・どうして〇〇にしたの。 ・この材料を選んだのはなぜ。
予想をたてる	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇したらどうなりそうかな。
外的リソースの活用を促す	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇なら、あそこで△△さんがやっていたから聞いてみたらどうか。 ・〇〇については、本に載っているかもしれないよ。 ・〇〇は本には載っていなかったから、一緒にPCで調べてみようか。

参考：朝倉淳（2008）「子どもの気付きを拡大・深化させる生活科の授業原理」